

ヒグマ対処法引率者検討部会（仮称）の設置及び検討スケジュールについて

1. 目的と位置づけ

知床五湖利用コントロール導入実験（H20年11月、H21年6月、計2回実施）の結果を踏まえ、抽出された課題に関して詳細を検討する。

H23年度からの実施体制の詳細を知床五湖の利用のあり方協議会に提案し、同協議会で最終決定するものとする。

2. 検討メンバー

詳細な制度の具体的な検討を行うため、これまでの議論・経緯を理解していることが望ましいという観点から、以下の対象者の中から希望者の参加を募る。

- ・ 知床五湖の利用のあり方協議会の参加者
- ・ H21年6月の利用コントロール導入実験に実験認定ガイドとして参加した者

* メンバーは個人の資格で参加し、第一回部会開催時までに確定する。

* 確定したメンバーには、基本的に全検討部会に継続して参加いただくのが望ましい。

3. 検討項目

ヒグマ対処法引率者は、利用調整地区制度の代表認定者（利用者の代表者：資料2-1参照）という位置づけから責任範囲を整理した上で、以下の項目について詳細を検討する。

- ・ ヒグマ対処法引率者の名称
- ・ 地上歩道利用時の基本ルール
- ・ 引率者の認定制度
- ・ 参加者の募集・受け付け方法
- ・ 平成22年度に実験を行う場合、その実行体制について

4. スケジュール

	時期	議題
第1回	11月初旬	課題の整理、基本ルール
第2回	11月下旬	基本ルール
第3回	12月	認定制度
第4回	2010年1月	募集・受け付け方法

【実験において指摘されている課題】

(ア) 管理側とサービス側のギャップ *受益者負担を謳う仕組みでありながら、利用者へのサービス意識が低い

サービス商品としてのチェック機能
中止判断の仕組みと責任の所在

(イ) ヒグマ活動期の基本ルール 実験で使用したたたき台の改訂。引率者など利用者側と、管理側と一緒に作り上げる仕組みが必要

- ! 50m (安全圏基準) の見直し
- 誰が何を判断するか
- 線引き
- 上記判断基準の明確化
- ヒグマ目視 わからなくなった 其の後の対応
- 引き返し 利用再開の復旧方法
- その他：無線交信の簡略化
- ポイント名の改良

(ウ) ヒグマ対処法引率者認定制度 実験を基に、認定制度を再検討する

- ! 応募要件（有償 100 日、五湖 30 日）は適当か
- 応募者の要件チェックを厳格化
- 研修回数と内容
- 合否判定の方法
- 住民は入れないのか

(エ) ヒグマ活動期の予約・集客システム

- ! 当日受付、現地受付
- 時間枠 & 事業者を選ぶ仕組みで複雑
- 時間枠の配分はどう調整する
- 旅行社のツアーを受け入れづらい
- 引率者毎の予約管理が煩雑
- 引率者の変更ができない
- 顧客情報の詳細入力煩雑
- 外国語対応が必要

(オ) ヒグマ活動期の現地運用体制

ツアーの時間間隔
現地受付のヒグマ対策体制
受付～出発までの手続き時間